

【 注射 】

５８７ アンピシリンナトリウム・スルバクタムナトリウム【注射薬】（急性気管支炎）の算定について

《令和７年６月３０日》

○ 取扱い

急性気管支炎に対するアンピシリンナトリウム・スルバクタムナトリウム【注射薬】（ユナシン-S 静注用等）の算定は、原則として認められる。

○ 取扱いを作成した根拠等

ユナシン-S キット静注用は β -ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤であり、添付文書の効能・効果※は以下のとおりだが、作用機序に「スルバクタムが β -ラクタマーゼのⅠc、Ⅱ、Ⅲ及びⅣ型を強く、Ⅰa及びⅤ型を軽度で不可逆的に不活化するため、アンピシリンがこれらの酵素により加水分解されることを防ぎ、アンピシリン耐性菌にも抗菌力を示す」旨記載されている。

急性気管支炎はウイルスによるものが多いが、肺炎マイコプラズマ、百日咳菌、肺炎球菌等の細菌が原因となっている場合やウイルス感染から二次性の細菌感染が生じた場合、また、その下行性進展病態である肺炎、肺膿瘍（ユナシン-S 静注用等の適応症）の併存についての臨床上の蓋然性が高い場合には当該医薬品の投与は有用と考えられる。

以上のことから、急性気管支炎に対するアンピシリンナトリウム・スルバクタムナトリウム【注射薬】（ユナシン-S 静注用等）の算定は、原則として認められると判断した。

（※）添付文書の効能・効果

○ 〈適応菌種〉

本剤に感性のブドウ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、プロテウス属、インフルエンザ菌

○ 〈適応症〉

肺炎、肺膿瘍、膀胱炎、腹膜炎